

# 春風秋霜 9月号

令和4年9月21日  
島田市教育委員会だより  
教育長 山中 史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

## 1 日本の未来を考えると…

先日、昔、外資系の会社に勤めていらっしゃった方と話す機会がありました。その方と話をする中で、最近の日本はどうなってしまったのかという話題になりました。いつの頃からか、日本では大学院を出たような博士が働く場所がなくなってしまい、優秀な人材が中国で最先端の研究をしていたり、医療の世界では、日本にいるよりもアメリカの方が研究できるからということで、アメリカに行ってしまったという現実があります。以前から言われている頭脳流出です。

日本では、人件費が高いからと、外国に工場を作って、安い労働力を使ってお金を儲けるはずだったのに、日本国内で働くところがなくなり、給与も日本だけが30年間上がらずに、いつの間にか生涯賃金も近隣諸国に負けてしまっているという事実があります。今の時代をしっかりと見ていかないと、気が付いたら日本は世界の中でずっと後ろを歩いている国になってしまうのではないかと、という話をしました。

特に、薬の世界では、日本でワクチンを開発し、得意分野だったはずなのに、今回のコロナ禍においては、いつまでたっても日本製のワクチンや飲み薬を開発することができません。せっかくできた新薬(飲み薬)は、まだ承認もされていません。

外資系の会社に勤務されていた方は、薬にかけている研究開発費の金額が全く違うということ、新しい薬を開発できるだけの独創的な研究者が日本にはいないという話をされていました。過去において基礎研究を大事にしてきた日本では、ノーベル賞をもらえるような研究ができたけれども、最近の文部科学省の研究費の配分を考えると、数年の間に研究成果を出さないと研究費さえもらえなくなってしまうような状況があり、基礎研究をやろうという人がいなくなってしまう、将来ノーベル賞をもらえるような人材は育たないという話をされていました。私もそう思います。

私が、コロンビア共和国で生活した2年間で色々と気が付いたことがあります。日本に住んでいると全く分かりませんが、自動車業界での中国車と韓国車の浸透ぶりには、目を見張るものがあります。特に、電気自動車は中国製が多いのには驚かされました。もちろん、トヨタ、ニッサン、三菱、マツダ、ホンダなどの日本の自動車も走っていますが、コロンビア国内には、ベンツ、シボレー、フィアット、フォルクスワーゲンとヨーロッパ車をはじめ、世界中で生産されている自動車が多く走っています。日本車が大部分という日本にいると分かりませんが、中国車、韓国車の世界進出には目覚ましいものがあります。このままでは、いつか日本は、抜かれるだろうという心配が頭をよぎりました。

## 2 素敵な記事が載っていました

9月17日の中日新聞に全日本BMXフリースタイル・パークの全日本選手権大会の記事が載っていました。エリートクラス女子決勝で東京五輪代表、島田市出身の大池水杜(おおいけ みなと)選手が2年ぶり5度目の優勝を果たしたという記事です。また、その中で、大池選手は「今年は世界選手権とワールドカップが残っている。そこで、表彰台に乗ろうと思っている。」という次の目標を掲げたと書かれて

いました。大池選手は、新しい目標に向かって、一步一步前に進んでいて素晴らしいと思いました。きっと次は、目標の表彰台に乗っているだろうと思います。

「夢から 始まる！！」 島田市出身の大池選手の活躍を祈っています。

## 肘かけ椅子

# 「アメリカで有名な日本人

## エンゼルス大谷選手」

教育総務課参事 高木雅彦

アメリカ大リーグ野球のエンゼルスで大活躍している大谷選手はアメリカでは名の知れた数少ない日本人だと思います。昨年は、一番活躍した選手とされる MVP に輝き、今年も投手で11勝、打者では30本と特大ホームランを量産し、大リーグの顔という位置づけを揺るぎないものに行っているように感じます。

先日も、大リーグでトップの奪三振を誇る屈指の剛腕投手が投げた渾身のストレートを見事に打ち返し、センターバックスクリーンに飛び込む逆転3ランを放ちました。これは、力と力の真っ向勝負に勝った結果だと思います。

アメリカ大リーグ野球には、日本のホームランバッターが何人も挑戦してきましたが、力と力の真っ向勝負には、大谷選手のような活躍はできませんでした。その主な要因は2つあると言われています。1つめは、「欧米人に比べ日本人は、骨格が小さい（体が小さい）」、2つめは「中枢の筋肉（瞬発的な動きに長けている筋肉）が発達していない」ことです。確かに、欧米人との平均身長差は、オランダやデンマークと10cm以上があります。陸上競技を観ても、瞬発力勝負の100m走、200m走は欧米人の活躍が目立ちます。

このようなハンディがあるため、体が大きく瞬発力を要するスポーツは、世界のトップになれない大きな壁があったと感じます。テニスの錦織選手も世界の4大メジャー大会の全米オープンで準優勝するなど世界ランク4位まで上り詰めましたが世界ランク1位の欧米人にはどうしても勝てませんでした。

日本人の得意なことは、「緻密な動きと精密さ」と言われています。日本人は、「和」という拘りのある伝統的な文化で育っているため、その民主性から細部に拘る部分に関しては世界トップレベルにあると言われています。イチロー選手がアメリカ大リーグでMVPを獲得できたことは真に「緻密な動きと精密さ」ではないでしょうか。体操・フィギアスケート・ボクシング（軽量級）などの競技結果からもうなずけます。

陸上競技の100m走では、日本人の個人記録は、欧米人に比べスピードの差がありますが、100m×4リレーでは、銅メダルが取れるのは、真に緻密な動きと精密さではないでしょうか。

日本のアスリートは、大谷選手をはじめ、昨年、ゴルフ界では日本人として初めて世界のメジャー大会を制した松山選手等、今まで超えられなかった欧米人の壁を越えつつあるように感じます。これからも世界で活躍する日本のアスリートがたくさん出てくることを期待しています。